ひ　ろ　ば

XBRLに取り組むのは「今でしょ!」

井上　新
（熱田支部）

皆さんは、電子申告で申告書を送信されていますが、送信する場合のコンピュータ言語が何で構成されているかご存知でしょうか。

「XML・XBRL（eXtensible Business Reporting Language）」という言語です。電子申告で送信する場合、申告書・科目内訳はXMLという言語に変換され、財務諸表についてはXBRLに変換されます。このXBRLは、我国では既にEDINET・東証NETで有価証券報告書に利用され、世界120カ国における金融財務部門に活用され、IFRS（国際会計基準）でも予定されています。

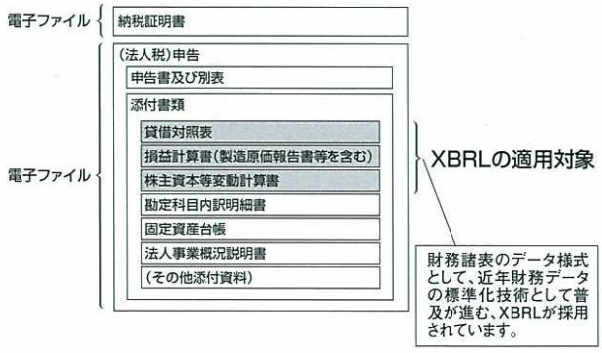
電子申告の普及率は、国税側のPR、税理士の代理送信が可能になったこと、利用者の実質的利便性の享受等により、今では、殆どの税理士会員に送信していただける所まで来ました。開始当初に比べれば、ITの環境、一般的な理解、技術力その他が、隔世の感があります。しかし、当初から疑問を持ちながらも、税理士として絡めなかった部分が、このコンピュータ言語（XML・XBRL）の問題です。

調べていくうちに、その言語の可能性の素晴らしさと同時に、マイナスになりうる面も見えてきました。陰を過大に強調し、「そんな得体の知れないものを、我々が扱う必要はない。」という意見と、「いち早く取り組み、未来会計システムに積極的に取り入れていくべきだ。」という意見に分かれます。自分で使っているのに、仕組みも知らずに作業を行うのか、あるいは積極的に解明し有利に展開させるのか。世の中の変化・現象に対し積極性をなくしたら、税理士の存在価値はなくなると思います。

安倍政権は、「世界最先端IT国家創造」宣言を６月24日に閣議決定しました。電子政府構想推進の復活です。中でも、ビックデータ・オープンデータをいかに活用するかを検討材料にしています。そこでは、言語の「標準化」がテーマとなり、自ずとXBRLに至ることは明確です。XBRLでコントロールされる社会が来た時、税理士は門外漢ではいられないはずです。

この数年で世界的周回遅れのIT後進国になってしまった我国は、マイナンバー制度も導入が決まり、再度IT化に動き出します。ITで、世の中をより公平・公正にし、国民がその利便性を享受し、その上で行政の効率的システム構築ができるようにすべきです。将来に向かっての国家の方向性を議論するには、政治力が必要です。しかし、会計とITに強い政治家は少ない。そこで、我々の業界・現場の業務に大きくかかわる、データの標準化・管理方法等について、税理士が積極的に動き、政治家を通じて行政に提言していくことが肝要だと考えます。

動くのは、「今でしょ！」

申告データの内容について

●e－Taxから取得可能な法人税申告の関連情報として、法人税申告書本体や別表、内訳明細書等の添付資料が全て１つの電子ファイル中に格納されています。